

<様式>

学校名	山形市立南沼原小学校 山形市飯沢59-2 Tel023-643-3010 Fax023-645-8598 e-mail school@minaminumahara-e.ymgt.ed.jp	校長	石澤 友章
		研究主任	菅原 慧美
研究主題	「つかむ」・「つながる」・「ふりかえる」子どもの育成 ～仲間とつながり、学びを生かす授業づくり～（2年次）		
研究主題設定の理由	社会的な背景から 現在、子どもたちを取り巻く環境は急速に変化し、予測が困難な時代になりつつある。こうした時代にあっても、子どもたちは様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を見つけ解決していくこと、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構築するなど新たな価値につなげること、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるなど、生きる力を育むことが必要である。		
	テーマについて 私たちは、子ども一人ひとりが自分自身の未知なる可能性（資質・能力を含む）を伸ばしていくことを願っている。そのためには、めざす子どもの姿を明確に示し「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善が必要である。 「つかむ」とは、課題をつかみ主体的に考える子どもの姿であり、興味関心をもって学習に向かい、追究したい課題を立てたり、課題を自分事として受け止め、主体的に課題解決の道筋を考えたりする子どもの育成を目指していくことである。 「つながる」とは、仲間の思いを受け止めて共に高め合う子どもの姿であり、仲間と共に考えを出し合いながら、課題を追究していこうとしたり、周りの人との温かい人間関係を築き、よりよい集団として高まろうとしたりする子どもの育成を目指していくことである。 「ふり返る」とは、学んだことを生かそうとする子どもの姿であり、なりたい自分の姿をもち、それに向かって努力（行動）しようとしたり、何がわかったか何ができるようになったのかをふり返り、自分の成長に目を向けられたりする子どもの育成を目指していくことである。 また、「つかむ」（自己決定）・「つながる」（共感的理解）・「ふりかえる」（自己存在感）の伸長の中で、多様な考えを認め、自分の考えを深めたり高めたりできることが子どもたちの大事な資質・能力となる。ここで得た経験や学びを糧に、子ども一人ひとりが、社会とつながりながら新たな価値を生み出し、成長していくだろう。そのためにも、学習指導力・生徒指導力・特別支援教育力に支えられる担任力が必要であることは言うまでも無い。教師が担任力を高め、つながりを大切にしたい授業づくりを進めることをねらい、サブテーマを「仲間とつながり、学びを生かす授業づくり」とした。		
	昨年度の取組みと子どもの実態から 成果として、①つかむ、②つながる、③ふりかえる、の視点から ①単元のゴールの姿・イメージを子どもにもたせることや、活動の見通しをもつこと、ヒントカードの導入など、主体的に取り組めるような手立てを行ったことで、学習への意欲が高まっていった。 ②相手の思いを聞くことや、温かい言葉がけから、よりよい人間関係の構築につながった。 ③振り返りの中で、次の課題を見つけられるようになった。 一方、課題として以下の点が浮かび上がった。 ①どの子どもも、自分事として学びを捉えること。 ①子ども自ら学ぶ意欲をもつこと。 ②子ども達が必要感をもって関わり合うこと。 ③形式的、形骸化した振り返りではなく、自分の成長や変容について語れる振り返り。		

上記のような課題が残った。以上の成果や課題を受けて、「主体的・対話的で深い学び」になっているかを、教師が確かめ、授業を改善していく必要がある。教科の本質にせまるための教材研究や、カリキュラム・マネジメントを活用した授業改善を通して、全教員共通理解のもと、めざす子どもの姿に迫っていく。

子どもたちが自分事として課題を「つかむ」こと、異なる考えを組み合わせるより良い学びになるように「つながる」こと、学んだことを生かすために「ふりかえる」ことを、本年度の研究として推進していく。子どもたち自ら学習を調整しながら学んでいくことができるよう、「個に応じた指導」を充実させるため、具体的な指導法を研究していく。

次の3つの視点から指導方法を工夫し、めざす子どもの学びの姿に迫っていく。

【授業づくりの3つの視点】

◇視点1 課題の「焦点化」
 子どもの実態を正しく見取り、どこまで学習目標に到達できるか、課題を見極めていく。
 ＊確かな教材研究（教材の精選・追究、授業研究、研究協議会、学年研究日の更なる充実）
 ＊子どもの思考を意識した単元構成や授業の創造
 ＊見通しがもてること、ゴールのイメージができること

◇視点2 思考の「可視化・共有化」
 仲間とつながりながら課題を解決していく時に、話し合いの視点を明確にし、解決の道筋がわかるような具体的な手立てを考えていく。
 ＊可視化の手立てを活用し、構造的に思考を整理し、共有化
 ＊協働体験の良さを積み重ねる（共感的に受け止め合う学級経営や学年経営）
 ＊必要感のある学び合いの場の設定

◇視点3 学びの「自覚化」
 課題→課題解決→ふり返り→新たな疑問や課題への挑戦…とふり返りの中で、子どもは自分の考えを整理、統合し、わかるようになった自分やその変容を確認できるようにしていく。
 ＊ふり返りの視点（何についてふり返るのか）
 ＊ふり返りの場の確保（授業時間内・家庭学習時間など）
 ＊ふり返りの方法（文章・円グラフ・段階評価など）

※この取り組みは、各教科に共通した学習過程及び生活全般において意識的に進めていく。

研究の内容

(1) 学校経営目標をうけ、学年研究日（毎週木曜日）に学年の授業リーダーを中心に単元構想や授業づくり、指導法・評価を研究し、学年（特別支援学級は学級）カリキュラム・マネジメントを活用しながら、めざす子どもの姿に迫る。全体会・研究推進委員会・学年会・学年研究日で共通理解しながら、研究の日常化による授業改善を図っていく。

(2) 授業研究の進め方

①研究教科 全教科（めざす子どもの姿を各教科から探っていく）

②授業研究会・・・小研 一人1授業（指導案は簡略化する）

大研 1授業

※中研については今年の様子を見て次年度以降検討することにする。

◇指導主事申請招聘・・・大研授業

◇研究会参加・・・大研授業（1）

③事前研・事後研

◇事前研…小研は学年で行う。

大研は、学年と研究推進委員、必要に応じて教科主任や授業者の希望する方を交えて行う。（2週間前までに）

※また、大研の事前研で話し合われたことや授業者の思いについては研究推進員が学年に持ち帰り、学年研究日に話し、大研の内容について共通認識を持てるようにする。学年研究日は事前に設定し、実施することとする。学年の中で授業について話にあがったことについては、簡単なメモにして授業者に渡すようにする。

◇事後研…めざす子どもの学びの姿について授業づくりの視点にそって話し合う。小研は学年で、大研は全員参加で検証していく。

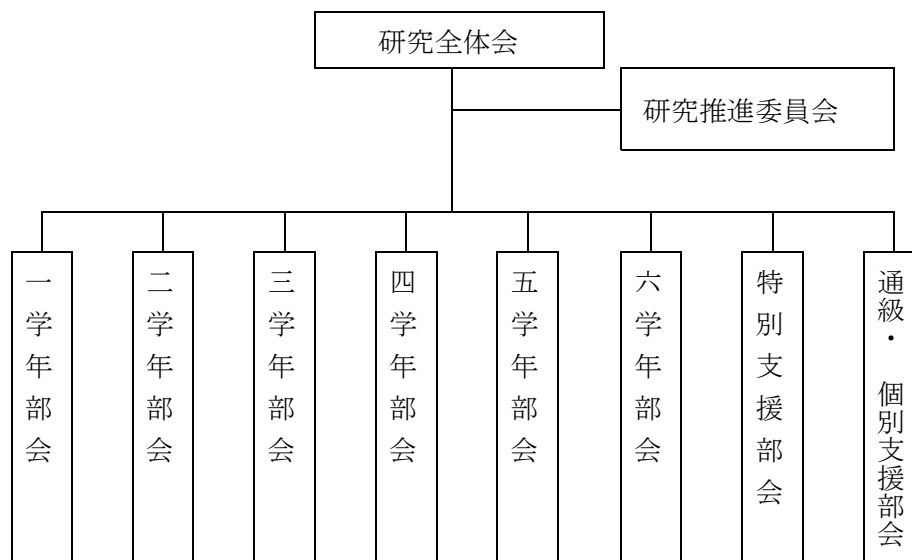
研究授業を参観した際は、感想記入用紙を活用し授業者にフィードバックしていく。

(3) 「校内研究だより」を発行し、授業研究会の視点を明確にして共有化を図る。

「研究紀要」（授業研究会の成果と課題を含む）を作成し、授業を通じた子どもの姿について、個々人で振り返る。学年(特別支援学級は学級)カリキュラムの評価に、前期間や年間を通じた子どもの姿について振り返る。

(4) 研究の組織

校務運営機構の各担当でも、めざす子どもの姿の観点から工夫してできることを検討し（委員会や学級活動など）、学びの環境を整えていく。そして、全校体制で研究を進めていくことを全職員で共通理解していく。また、担外は授業を行う学年部に所属する。



R5 年度学校研究全体構想

学習指導要領

学校教育を通じて、よりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の担い手となるために必要な資質・能力を育む。

第6次山形県教育振興計画

人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり

「つなぐ」～いのち、学び、地域～

いのちをつなぐ人の学びを生かす人の地域をつくる人

山形市教育大綱・山形市教育振興基本計画

郷土を誇りに思い いのちが輝く 人づくり

～山形らしさの継承 発展 そして発信～

学校教育目標
広い心
丈夫な体
進んで学習

研究主題

「つかむ」・「つながる」・「ふりかえる」子どもの育成

～仲間とつながり、学びを生かす授業づくり～

つかむ

課題をつかみ、主体的に考える子ども
(自己決定)

つながる

仲間の思いを受け止めて、共に高め合う子ども
(共感的理解)

ふりかえる

学んだことを生かそうとする子ども
(自己存在感)

担任力の向上・授業づくり

- ・課題の「焦点化」課題をつかむためのアプローチを工夫する
- ・思考の「可視化・共有化」構造的に思考を整理し、共有を図る
- ・学びの「自覚化」学びをふり返る手立てを工夫する

子ども理解・UDを基盤とした個に応じた指導

- 学年会（子どもを語る場）
- 学びの環境作り
- ICT 機器の活用
- 集団作りのスキル

研究（授業改善）の日常化

- 学年研究日
- 単元構想・指導法
 - ・評価の研究
- 学年（学級）カリキュラム・マネジメントの活用